

異文化理解の本質とは何か

—身近な自然と人間との関わりを通して
世界の多様な価値観と生活様式を「発見」するセンスを育てる—

◆講演：野中健一（立教大学教授）

◆司会：竹田 之（英語科講師）



よく語られることですが「異文化理解」とはどのようなことでしょうか。

野中さんは、食文化、とりわけ身近な自然の一部である昆虫について、アフリカ・東南アジア・オセアニアなどで20数年にわたり、現地の人々の暮らしの中から「探り」「見渡し」「比べて」「体験し」「感じ」「思索」してきました。

日常的に身近にいる昆虫、その食文化については、今年のセンター試験英語第3問のA、不要文削除の問題の一つでも出題されています。

このように最近話題になっている昆虫食・民族昆虫学の第一人者であり、多くの著作がある野中さんに、これからの国際社会での多様な人々との付き合い方、異文化理解の本質とは何かについてお話ししていただきます。

野中健一（のなか けんいち）

1964年、愛知県生まれ
現職/立教大学・文学部史学科超域文化学専修（文化環境論）・教授
専門分野：地理学、生態人類学
1987年 名古屋大学文学部卒業
1991年 名古屋大学文学研究科史学地理学専攻中退
1991年 北海道大学文学部助手
1993年 名古屋大学文学部助手
1994年 三重大学人文学部講師、助教授
1999年 「セントラル・カラハリ・サンの民族昆虫学的研究」により、京都大学より博士（理学）を取得。
2003年 総合地球環境学研究所研究部助教授
2007年 立教大学文学部教授、現在にいたる

■著書 『民族昆虫学：昆虫食の自然誌』東京大学出版会2005年、『虫食む人々の暮らし』日本放送出版協会（NHKブックス）2007年、『昆虫

食先進国ニッポン』亜紀書房2008年、『虫はごちそう！』小峰書局2009年

■共著 『環境地理学の視座〈自然と人間〉関係学をめざして』朴恵淑 昭和堂2003年

■編著 『野生のナビゲーション：民族誌から空間認知の科学へ』古今書院2004年、『ヴィエンチャン平野の暮らし：天水田村の多様な環境利用』めこん2008年

■研究活動

環境地理学、生態人類学、民族生物学をベースとして、生き物との関わり合い（認識・獲得・利用）について、日本、東南アジア、南部アフリカ、オセアニアを中心としてフィールドワークに基づく研究に従事。昆虫食などの小動物、植物資源など生物の文化資源利用の視点から文化地理学的研究を行い、環境認識や地域の文化資源づくり、獣害対策や地域コミュニケーションの研究にも携わる。

7月4日(水) 17:30~19:00
立川校 3G教室



入場無料
申込不要

〒190-0012 立川市曙町1-14-13

☎0120-198-640

●JR中央線・南武線・青梅線/立川駅北口より徒歩3分

●多摩都市モノレール/立川北駅より徒歩2分、

立川南駅出口1より徒歩3分

